自　己　評　価　表

愛媛県立新居浜南高等学校

学校番号（6）

教育方針	個性豊かで広い視野を持ち、心身ともに健全な人間を育成する。	重点努力目標	1　個性や適性に応じた科目を主体的に学習し、自己実現に努力する態度を育成する。 2　地域と連携した教育活動を推進し、社会に貢献する態度を育成する。 3　自他の人権を尊重する福祉の心を育て、地域を支える人材を育成する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
①組織運営等	教職員間の共通理解	教育目標を達成するために、教職員間の共通理解を図り、円滑なコミュニケーションや連携・協力体制を構築する。気軽に話ができる場と機会を設ける。	C	教職員間の共通理解は概ね図られている。より一層の教職員間のコミュニケーションを促進し、連携と協力体制の構築につなげていきたい。	総合学科の特性もあり、職員室に常駐する教員が少ない。ICT機器の活用を促進し、情報の共有を図りながら仕事の効率化を一層進めていく。 職員朝礼の簡略化を継続し、生じた時間で年次団内等におけるコミュニケーションを一層密にしていく。 運営委員会前の関係者の打合せを促進し、より一層の会議の円滑化を図る。 メンタルヘルスに対する共通理解を図り、ワークライフバランスを重視した働き方改革を浸透させる。 魅力的な教育活動を推し進め、生徒に寄り添いながら学校生活の活性化を図る。 今後もさら地域と連携した教育活動を図り、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。
	会議の効率化	運営委員会や職員会議、各種委員会の円滑化を図り、効果的に運営を実践する。グループウェアや校務支援システムなどを積極的に活用することで無駄を省き、スリム化を図る。	B	運営委員会や職員会議の所要時間が短縮された。職員朝礼の簡略化で年次会等の小集団での打合せの時間の確保が進んだ。	
	危機管理意識の高揚	学校の安全管理に関する教職員の危機意識を毎月定例の職員会議において喚起する。	B	衛生委員会で提案事項を吟味し、職員会議で報告した。	
	職場環境の整備	教職員の心身の健康に配慮された、能率よく勤務できる職場環境を整備する。教職員間の業務量の多寡を調整し、働き方改革を進める。超過勤務時間の多い教職員数の前年比50%減を目指す。 A：50%以上　B：40%以上　C：30%以上　D：20%以上　E：それ以外	D	教職員の心身の健康について、管理職から個々への声掛け等を通じて問題点を把握するように努めた。 業務量の多寡を調整が進まず、超過勤務時間の多い教職員（超過勤務が月80時間以上）が前年から微減にとどまった。	
	南高満足度の向上	魅力ある学校づくりに努め、南高へ入学してよかったと思える生徒の増加を図る。学校評価アンケートでの評価を前年比10ポイント増を目指す。 A：10ポイント以上　B：8ポイント以上　C：6ポイント以上 D：4ポイント以上　E：それ以外	C	生徒・保護者・地域の方々からの学校への信頼度が向上し、生徒からの「満足度」は高い評価を得ている。	
②教育課程・学習指導	教育課程の充実	各系列の特色を生かし、生徒の進路実現のために充実した教育課程を編成する。系列集会を月１回以上実施するなど、系列の特色をより鮮明にして、生徒の活動の場を設定する。	C	年4回の教育課程検討委員会を実施し、各系列の特色を生かした教育課程が編成できている。系列集会では年次を越えた交流・情報交換を行い、1年次生や中学生への系列紹介活動を行った。月１回以上の実施はできていないが、最大限の活動成果を上げるためには適切な時期に絞った実施がよいと考える。	系列を中心とした学習の推進は、総合学科としての大きな特色であり、系列集会を導入している。今年度は、実施内容や取組について、系列の趣旨や実施内容の精選し、月１回以上の実施ではなく教育的効果を最大限に発揮できる時期に限定しすることで、系列の特色を生かした活動ができ充実させることができた。今後も引き続いて、学校行事等と連携させ、より効果的で最大限の成果が得られるように実施時期を精選していきたい。 国公立大学への進学者が昨年より増加したが、今後も、生徒の可能性を広げるような学習指導及び進路指導を充実させていきたい。 「生徒一人一台端末」に活用について、教職員間に温度差があったが、各配信時のペーパーレスやアンケート集計など、その利便性や効果的な活用方法の認識が図られ、差は縮まるなど状況は良好である。これを機に、GIGAスクール構想の実現へ向け、教科指導においても、適切な場面でより効果的な活用ができるように教材研究を行い、確実に前進できるよう取り組んでいきたい。 生徒の授業に対する評価は高い。来年度以降も、ICT機器を積極的に活用するなど、さらに努力したい。 校内研究授業を計画的に実施するなど、教員相互の授業改善に対する意識は高い。各教科での相互参観授業では参観シートを導入し、フィードバックする方法を工夫しているが来年度以降も継続していきたい。
	学習指導の充実	学習方法の指導などガイダンス機能の充実を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高め、学習習慣の確立を図る。	B	学び方の指導も含めて、細やかな学習指導ができた。生徒の学習する様子や成果を認めることで、学ぶ意欲の向上を図ることができた。	
		課題テストや小テストを実施し、「やればできる」ことを生徒に実感させ、家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	B	各教科・科目で課題テストや小テストを実施し、生徒の学習意欲の向上を図ることができた。全校で導入しているGoogle for Educationの各種ツールを活用して、タブレット端末を使い家庭学習にも対応することができた。	
		生徒一人一人に対して、生徒の実態に応じた個別指導を徹底し、生徒の学力の定着と向上を図る。学校評価アンケートでの授業満足度100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上　E：それ以外	B	生徒の発達段階や学習の到達状況に応じた丁寧な個別指導ができた。特に、3年次生に対しては、就職指導、進学指導ともに充実した指導ができた。授業評価アンケートでの評価は、96.0%であった。	
	授業の充実	基礎的基本的な知識・技能が定着するよう、分かりやすく興味が持て、集中して取り組める授業を工夫する。ICT機器の活用や相互授業参観を年に8回実施することにより授業改善を行う。 A：8回以上　B：7回　C：6回　D：5回　E：それ以外	A	Google for Education など、ICTを活用した授業や課題の配信が定着している。各教科で、生徒の興味関心を喚起し、分かる授業の実践に努めることができた。相互授業参観の実施は、6月の学校訪問研修、11月の公開授業週間を含めた年3回の公開授業で実施されたことから、回数は延べ30回を超えるなど目標を大きく上回ることができた。来年度以降も相互御参観授業は実施していきたい。	
③生徒指導	指導体制の確立	全教職員の共通理解の下、一貫性のある指導ができる組織的な体制を確立し、指導を行う。毎月１回、年次ごとの指導を行う。	B	全教職員の共通理解はできていると思うが、いざ指導するべき場面となると、対応に少し差がある場合があった。	特別指導に値するような大きな問題行動はほとんどないが、平素の生活指導が教員間で意識の差があり、少しづつ注意指導が緩くなってきている気がする。しつけを怠っていると、学校全体の雰囲気も緩くなり、必然的に問題行動も多発する恐れがある。まずは教員間の意識統一を徹底し、学校全体で生徒指導に取り組む体制づくりが必要だと思う。
	基本的生活習慣の確立	高校生らしい身だしなみで生活できるように、教育活動全般において継続的な指導を行う。また、しっかりとした規範意識の醸成を図る。身だしなみ指導合格生徒100%を目指す。 A：95%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上　E：それ以外	B	事前の呼び掛けを行っているため、準備はよくできている。指導後の日常での学校生活では、継続的に正しい身だしなみができていない生徒も見受けられる。平素から細かな指導がもっと必要だ。	
		出席率の向上を目指し、遅刻や欠席の目立つ生徒への段階的指導を行うとともに、家庭や関係機関と連携し、生活習慣の改善を促す。 長期欠席者の数を全体で限りなく0に近づける。 長期欠席者A：0人　B：5人以下　C:10人以下　D：15人以下　E:それ以上	B	長期欠席者の数は数名であったが、今年度は遅刻の数が非常に多かった。朝遅刻連絡があれば指導の対象とはしていないため、指導される生徒は少ない。連絡に関しても、マチコミによる連絡なので誰が連絡してきたかが把握できない。遅刻指導の在り方も考える必要がある。	
		校内外で活気ある明るい挨拶ができるようにホームルームや部活動等で指導を図る。明るい挨拶と返事ができる生徒100%を目指す。 A：95%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上　E：それ以外	B	ほとんどの生徒が気持ちの良い挨拶ができるが、一部の生徒は相手が挨拶しても返すことができないこともある。挨拶がコミュニケーションの始まりであることを、機会あるごとに再確認させる必要があると思う。	
	家庭・地域との連携	本校の生徒指導の方針や取組について、家庭・地域・関係機関に理解していただくとともに、連携しながら指導を行う。	B	ほとんどの家庭は学校での生徒指導に協力的ではあるが、一部の保護者においては、放任主義であったり、やや理解に欠ける保護者もいた。	

※評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
④進路指導	進路実現	生徒一人一人の進路希望の把握に努め、教職員の共通理解の下、3年間を見通した進路指導を行う。進学・就職とも希望する進路実現100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上　E：それ以外	B	全教職員協力の下、ほとんどの生徒が希望する進路実現を果たすことができた。就職に関しては、就職希望者31名が早期に内定をいただいた。進学に関しては国公立大学5名を含め、進学希望者63名中61名が推薦・総合型選抜で合格した。	昨年度は国公立大学を受験し、合格した生徒が1名であったが、今年度は年次団を中心に生徒に高い意識を持たせ、7名が学校推薦型と総合型選抜を受験し、5名が合格した。近年では最も多い合格者数である。一般選抜でも1名が国公立大学を受験予定である。来年度以降も主体的に学習し、高い目標に向かってチャレンジする生徒を育てていきたい。 就職に関しては、昨年度より求人票をタブレット端末で見られるソフトを導入し、保護者も自宅で見られるようになった。近年の人手不足を反映し、多くの求人があったが、仕事内容を吟味せずに社名や保護者の意向だけで就職先を決める生徒も少なからずいた。次年度は校内の会社説明会をさらに充実したものにしたり、校外での就職イベントへの参加を積極的に促していきたい。
	面接指導の充実	就職試験や進学の学校推薦型選抜等に対応できるマナー指導や面接指導等を全教職員の理解と協力の下、実施する。	B	夏季休業中に就職希望者対象の面接指導を全教員で行ったり、外部から専門の方を招いてマナー指導を行い、生徒の進路実現に大きな役割を果たした。	
	適切な情報提供	進学や就職の情報を適切な時期にICTを活用し、本人や保護者に提示し、周知に努めるとともに、進路指導室・進路資料室に、進路に応じた資料等を準備し、活用を図る。	A	昨年度まではオープンキャンパスや各種ガイダンスなどの案内は、クラスや進路室前に掲示していたが、今年度からICTを活用し、確実に全生徒が閲覧できるようにした。	
⑤特別活動・ボランティア活動	ホームルーム活動	各年次に合わせた適切なホームルーム活動の主題を設定して、計画的に実施する。	A	各年次で計画的なホームルーム活動が実践できている。クラス独自のテーマ設定時数を有効に活用し、担任の個性を生かしたクラス経営や生徒間の相互理解を深める機会を作るなど工夫が見られた。	人権・同和教育や保健に関するホームルーム活動など、地域に根差した実践的な活動ができており、今後も継続し、さらに発展させたい。また、2・3年次では系列ごとに分かれての学習活動が中心となるため、ホームルーム単位での活動減少に伴うクラスへの帰属意識が低下するという課題がある。特にこれらの年次では、ホームルーム活動の主題設定を適切かつ計画的に取り組むよう、年次主任を中心に常に確認していきたい。 生徒会役員選挙や各種学校行事の実施に当たり、生徒は主体的に活動し、取り組むことができた。事前の準備段階において、教員が丁寧に対応・支援しすぎる場面もあったが、今年度まいた種が着実に成長して新年度の活動が主体的に展開できるよう支援していきたい。また、生徒会の組織も規約通りに整ってきたこともあり、様々な場面で経験値を上げながら活動の充実を図りたい。 学校行事や部活動、ボランティア活動等が順調に行われた一年であった。ただ、ここ数年の経験を生かし、検討すべき事はこのタイミングで対応しながら、生徒の安心・安全が確保された特別活動の実践に引き続き学校をあげて取り組んでいきたい。 令和6年度は、部活動支援事業「魅Can部」をスタートさせ、本校の「部活動の指導における、顧問の配置・負担軽減を図り、これまでと変わらない活動の提供」に努める」体制の構築に努めた一年であった。文化部、体育部、総合部それぞれが「魅Can部」の刺激を受け切磋琢磨し、さらなる活動の充実と成果向けて組織としてより充実させていきたい。 次年度は以上のような改善方策により、生徒のバランスのとれた心身の育成を目指し、より一層、特別活動の在り方を研究し、実践していきたい。
	学校行事・生徒会活動	生徒が学校行事や生徒会活動に主体的・積極的に参加し、教師と生徒が連帯感を持って取り組む諸行事の実施を図る。学校評価アンケートでの学校行事満足度100%を目指す。 A：100%　B：90%以上　C：80%以上　D：70%以上 E：それ以外	A	COVID-19への対応の経験から学んだこと活かしながら、学校行事等を再開することができた。また、全てを以前と同様に戻すのではなく、新たな在り方を生徒と教員が一緒に考え、実践できたことは高く評価できる。生徒会活動も、主体的に取り組む組織として成長をみせた。	
	部活動	生徒の健康面や安全面に留意し、好ましい人間関係の育成などに配慮した運営を図る。部活動加入率90%以上を目指す。原則、平常日・週休日に各1日休養日を設け、効率的な運営を目指す。 A：95%以上　B：90%以上　C：85%以上　D：80%以上　E：それ以外	C	COVID-19の感染症の影響を中学時代に受けた世代が高校年代の中心となる中、多くの大会やコンクールが以前に近い形で実施された。経験不足等からくる、人間関係の構築には課題が残る場面も見られたが、精一杯、日頃の活動の成果を表現できたと思う。 ただ、部活動加入率には課題が残る年度となった。 ＜加入率は、86.7%。（昨年度　95.2%）＞	
	ボランティア活動	ボランティア活動参加数延べ1,000名以上を目標に、中心として活動する地域共創系列やユネスコ委員会、VYS部、家庭クラブ等を生徒会が支援する形で、全校生徒の意識の高揚を推進する。 A：1,000名以上　B：950名以上　C：900名以上　D：850名以上 E：それ以外	E	ボランティア活動全体としては、主催者側からの制限は解消されてきたが、依頼日程の重複や参加前提の形での依頼が増えるなど、学校側の調整だけでは対応できず、とが多く、お断りする案件も少なくなかった。ただ、VYS部や地域共創系列、ユネスコ委員会、家庭クラブ等の生徒だけでなく、多くの有志生徒が地域と連携しながら主体的に取り組むことができた。 以上を踏まえ、次年度は数値目事態を見直したい。 ボランティア活動参加延べ人数は、474名。（昨年度　337名）	
⑥保健管理	保健活動	学校運営組織の中に学校保健の分野を適切に位置付け、全教職員が役割を分担して活動できる体制を構築する。	C	通常の学校保健活動が行われた。衛生委員会のアンケートなどを活用し教職員の要望等を聞き、職場環境の改善に取り組めた。	全教職員が心身ともに健全に働くことができる環境が必要である。学期末の学校評価や職場環境アンケートに出てくる様子が改善されなければと感じる。一部の教諭に仕事が偏っているとよく言われるが、何もしない教諭が3人いれば、校務分掌に二つに所属しているので、6か所に穴が空いている状況になっているのだろう。
	健康管理	健康診断と事後処置を計画的に実施し、健康診断で発見された異常の事後措置・指導の受診率100%を目指す。 A：100%　B：90%　C：80%　D：70%　E：それ以外	C	心電図異常などの受診率は100%であったものの、視力に関しては事後の受診率が低い水準でとどまった。	
	安全・衛生・清掃美化	美しい環境づくりの意識を持ち、毎日の清掃に、開始から終了までの10分間一生懸命取り組める生徒100パーセントを目指す。 A：100%　B：90%　C：80%　D：70%　E：それ以外	D	奉仕活動は積極的に取り組めていたが、毎日の清掃活動は消極的ではないだろうか。	
⑦人権・同和教育、特別支援教育	教職員研修	全教職員が人権・同和教育及び特別支援教育についての意識を高め、指導の力量を身に付けていくための研修を実施する。	C	地域との連携を図るべく、地域の実情や取組についての研修を実施することができた。高校の実践の果たすべき役割などを自覚することで、全教職員の指導への意欲を向上させることができた。	本年度は学校訪問研修があり人権・同和教育ホームルーム活動の授業研究を1学期に集中的に行った。それにより、課題やその後の活動の見通しがより明確になり、各クラスの実情に応じてホームルーム活動を実践することができた。一方、クラスの実情に合わせるあまり、実践のテーマに偏りがあるなどの問題もあった。次年度は年次での事前の打ち合わせなどをより具体的なものにしたい。教職員研修では、高校における人権・同和教育の果たすべき役割などを学び実践につながる研修を実施することができた。人権委員会の活動では、活動内容について全教職員、全校生徒で共有し、活動や成果が伝わるようにして一層の人権意識の高揚に努めたい。進路保障においては、差別を見抜く力を養わせ、適性にあった進路実現ができるよう啓発してきたい。
	生徒の主体的な取組	各種の学校行事や人権委員会の活動を通して、生徒の主体性を育みながら人権意識の高揚を図る。	B	現地研修会を実施し、主体的な生徒の学びを人権・同和教育ホームルーム活動でフィードバックすることで、全ての生徒の人権意識の高揚に効果的な取組ができた。	
	進路保障	様々な困難な条件の下にある生徒に対して、家庭・地域・関係機関等との連携を図りながら進路保障の徹底に努める。	B	オープンスクールや応募前職場見学などを利用し、進路先について情報を十分に得て適切な進路を選択することができた。保護者との連携を密にすることで各自の進路目標を達成することができた。	
⑧図書・研修	現職教育	教育公務員としての自覚と使命感の高揚に資する研修等、必要な研修を必要な時期に必要な対象者が受けられるように情報を周知するとともに、計画的に実施する。	C	校内外の各種研修案内について、グループウェアの電子掲示板を利用して、周知を図った。	生徒たちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、引き続き校内研究授業や相互参観授業週間を実施し、研修の機会を設けていきたい。来年度から、全国教員研修プラットフォーム(Plant)の利用が始まるため、スムーズな利用ができるよう情報を発信し、各種研修に関する情報を共有し、活用していきたい。 生徒の興味・関心に合わせた新刊図書の購入、生徒の目に触れやすい場所へのお薦めの図書コーナーの設置、各系列の学習内容を踏まえた図書資料の充実、図書委員会を中心とした読書推進活動の充実を図りたい。昼休みや放課後に図書館を訪れ、図書館の存在そのものが心の拠り所になっている生徒もいるため、生徒の安心できる居場所としての機能を高めたい。
	教科指導の充実	互見授業や研究授業を実施し、授業を校内や地域に広く公開することで、教員の指導力や生徒の学習活動の向上に努める。	C	6月に学校訪問研修があり、多くの教員が研究授業を行い、授業の進め方や工夫について考え、授業改善の手掛かりを得ることができた。	
	読書意欲の向上	朝読書の充実をはかることで、生徒の読書への意欲を高める。また、使いやすい学校図書館環境の一層の充実に努める。	C	各年次とも朝読書の時間は静かに本を読み、落ち着いて過ごしている。年間図書貸出数が伸びておらず、貸出数増加のための有効な方法について検討していきたい。	

※評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度への改善方策（意見）
⑨ＩＣＴ	機器の整備と活用	全教職員が「生徒一人一台端末」を活用した教科指導を実践し、生徒の学力の伸長を促すとともに学習意欲の増進を図る。また、教職員の指導力の向上ために全体的な研修や個別の情報交換を進め、GIGAスクール構想を推進する。	C	一人一台端末を用いた授業がClassroom等により当たり前になりつつある。また、ICTの使用により教職員の負担軽減等、ワークライフバランスの形成にも役立っている。	ICT機器等の校内研修を充実させ、各教職員の情報リテラシー（セキュリティの観点を含む）の強化を引き続き図るとともに、生徒への情報リテラシーの強化も行っていけるようにしたい。生徒一人一台端末は現在においても利用が充実していると感じているが、利用方法については、他の課、各教科等と連携を図り、学力の伸長、学習意欲の増進のための、よりよいツールとなるよう指導していきたい。
	ホームページの整備と活用	学校行事等、学校の情報をタイムリーに発信し、学校の様子や生徒の活動状況を広く周知する。生徒アカウントを作成し、生徒も発信していけるようにする。	C	各教科、各課において、行事等を素早くホームページにより発信できている。学校行事予定等の発信も遅れることなく実施することができた。	
⑩教育相談	教育相談の周知徹底	「教育相談室のお知らせ」を毎月教室掲示し、「教育相談だより」を学期に1回以上発行することで、教育相談活動の周知と理解を図る。また、教育相談室を活用して気軽に相談できるように工夫する。	C	「教育相談室のお知らせ」は毎月の発行とはならなかった。生徒や保護者への周知については、相談課員やスクールライフアドバイザー、スクールソーシャルワーカーなどに、どの学期にも数件相談があり、気軽に利用できた様子である。	教員の体調不良等で、教育相談室のお知らせ（教育相談室在室について）が滞る月があった。持続可能、実施可能な形で継続していきたい。 特に人間関係のトラブルに関する対応では、担任や部活動顧問が現場で見聞きすること等、大小様々な案件が日々発生する中で、各課、年次等へ、何をどこまでどの順に報告する必要があるのか、判断の難しい案件が増えた。教員間で共通認識が必要である。
	生徒の状況把握	教職員の連携を密にして、生徒の状況把握に努める。学期末ごとに生徒情報についてのアンケートを実施し、生徒情報の集約を行うことで、関係各所連携と早期対応につなげる。	B	特性のある生徒や、配慮が必要な生徒について、学期末に教員へアンケートを実施し、情報収集と、必要な対応についての共有を行うことができた。	
	教職員間の情報交換	教職員間のコミュニケーションをとり、素早い情報交換・共有を行い対処する。アンケートで得た生徒情報など、必要に応じて、年次や職員全体への情報共有を行う。	C	生徒のトラブルや要配慮事項について、必要に応じて教員全体への情報共有を行うことができた。生徒のトラブルが多様化しており、各課、年次などに報告を行うべき内容について共通認識が必要である。	
⑪保護者、地域住民等との連携	保護者への情報提供	南高通信やPTA通信の発行、ホームページの活用によって、学校での生徒の状況が保護者によく分かるように情報の提供に努める。また、研修旅行や文化祭でのPTA活動など保護者の学校行事への参加の機会を拡充する。	B	おおむね計画通りの情報提供を達成できた。ホームページの行事予定についても情報科の協力で円滑にできた。また、保護者の各活動への参加については改善の余地があったと思われる。	研修旅行や奉仕活動への参加のあり方について保護者の要望を生かしていきたい。 地域との協力については、生徒について防災面での体験活動への参加機会の拡充に取り組みたい。さらに生徒自身の防災面での組織化などが次の課題であると認識している。次年度は角野地域との合同での防災避難訓練が予定されているのでその効果的な実行に取り組みたい。
	地域との教育活動	地域の行事に積極的に参加・協力したり、地元の小・中学校や公民館等関係諸機関との交流を積極的に行い、地域に生き、地域に貢献できる生徒の育成を図る。	A	防災面について角野地域・公民館との協力関係が進展したことが大きな成果である。	
⑫産社・総合探究の時間等	キャリア教育の推進	「産業社会と人間」「ライフスタディⅠ」「ライフスタディⅡ」に主体的に取り組ませることで、望ましい職業感や就労観を育み、インターンシップなど積極的な導入を図り、キャリア教育の推進をさらに加速する。	B	企業見学、上級学校・施設訪問、インターンシップ（工業）、ライフスタディⅡ発表会など地域と連携した体験的な学びの実践が行えた。そのようなことから、目標達成に向けた成果が見えている。	キャリア教育を推進し、昨年に引き続き事業所訪問、上級学校訪問、インターンシップなどへ取組むとともに、新居浜市SDGsプラットホームと連携を図り、特にライフスタディⅡを中心に多様な学びを実現するため地元産業界との協働事業を展開したい。
⑬事務管理	親切な応対	来訪者及び電話への応対を親切かつ丁寧に行うことで、生徒や保護者、関係者からの信頼を得ることができるように努める。	C	来訪者及び電話への応対を親切かつ丁寧に行うことができた。	来訪者及び電話への応対を親切で丁寧な対応を引き続き行う。 生徒の安全・健康のため施設や設備の適切な管理運営、教育・衛生環境の改善等を、予算を考慮しながら対応していきたい。 理科教棟の外壁等修繕を進めていきたい。
	適切な事務処理等	経費の節約に努め、適正かつ能率的な事務処理を行うとともに、施設や設備の適切な管理運営を行うことで、学校の教育活動の効率化を図る。	B	生徒の安全のため施設管理を心掛けるとともに、理科教棟のLED照明、トイレ洋式化等改修、特別教室のエアコン設置等に努めることができた。	

※評価は5段階（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。